NPO日本朗読文化協会

Rodoku News 朗読ニュース

2017年 早春号

2017年 年頭挨拶

飛躍の年に向けて

NPO日本朗読文化協会 理事長 **城所ひとみ**

“春は名のみの風の寒さや”早春賦のとおり、この季節は春を待つ心ですが、年で一番寒い季節ですね。

昨年来ＮＰＯ日本朗読文化協会は抜本的に見直しをし、さらなる発展のために検討会を進めており、今年はいよいよそれを実行するという大きな転換期をむかえることになります。創立16年、「朗読の日」も15回目という節目の時期にふさわしい飛躍の年となるようにしていきたいと思っております。理事会、運営委員会、タスクフォース（協会の明日を考える会）が一枚岩となり、皆様の大好きな朗読をより楽しめる、居心地の良い、ＮＰＯ日本朗読文化協会に入って良かったと思っていただける協会を目指して、会員の皆様とともに作り上げて行きたいと思っております。朗読が大好きな方が集まり、自分達の為に自分たちで朗読会や、イベントを作り上げるという原点にもどりましょう。皆様が参加をしてこそ、このＮＰＯ日本朗読文化協会の意義がありますので、是非ともいろいろな機会に積極的なご参加をおまちしております。

「NPO日本朗読文化協会」は誰かの仕事で15年間動いてきた。

NPO日本朗読文化協会 監事 **伊澤逸平**

私たちの協会は頭にＮＰＯの冠を抱いている。朗読とＮＰＯはどこで結びつくのかピンとこない。結びつけること自体至難の技と思いがちだが、そんなに難しいことではない。まず、しっかり心をこめて朗読をする。聞いて下さる方々の心に何かが少しでも届けばそれでいい。これで定款に掲げる「朗読の普及」は十分に果たしたことになる。しかし、ここにプラスアルファが欲しい。舞台に立ち朗読をするにはそれを支える裏方の仕事がある。会員の誰かが知恵を出し、汗を流した結果、幕が上がる。いわゆるボランティア活動であり、無償の行為である。しかし、ボランティア活動の本質は「自発性」といわれる。どうやらＮＰＯには「言い出しっぺの法則」というのがあるらしい。企業組織のように上司の命令や誰かの指示で動くのではない。自ら思ったことを仲間の合意を得ながら自発的に行動する。ＮＰＯ組織はこの歯車が回った時に成立する。

会員は協会のお客様ではなく、協会活動に賛同した人々の集まりであり、会費は協会への支援金と私は考えたい。

第9回 朗読アラカルト

「第9回朗読アラカルト」は2016年12月7日(水)高輪区民センターで開催されました。今年は土日に会場が取れず、平日開催のためか、お客様は昨年より少なめの約150名でしたが、様々なジャンルの作品、プロの演出・音響・照明による見ごたえ聴きごたえのある舞台に、心から満足されていたようです。(皆さんお上手ですねえ、という感嘆の声も！)

今回初めて、協会員だけでなく、協会の講座を受講されている非会員も出演可能としたことで、数名の非会員の方が出演され、より「アラカルト」なプログラムになったのではないでしょうか。

また、これまでアラカルトを演出されてきた飯田輝雄氏が病気療養中のため、急遽倉田ひさし氏に演出をお願いすることになりました。突然のことでかなりご苦労されたと思いますが、当日まで様々な点において細やかな配慮をしてくださり、出演者は安心して本番に臨むことが出来たと思います。そして飯島晶子先生にも、本読み時のご指導から何かとお世話になりました。お二人には心から感謝致します。

さて今回、当日のお手伝いを公募したところ予想以上のお申し出があり、日頃顔を合わすことの少ない会員が一緒に活動できる貴重な機会になったのではと思います。出演者・スタッフ・当日お手伝いの皆さん、客席から応援してくださった方々、アラカルトを成功に導いてくださった皆様、本当にありがとうございました。

最後に、出演者として、スタッフとして、お客様として…朗読アラカルトの楽しみ方は様々です。次回はどんな形ででも、朗読アラカルトをご一緒にお楽しみください。（実行委員長 中村悦子）

「朗読アラカルト」初参加、Aテージ、トップバッター。「はい」と合図をもらってステージに、落ち着いて読めたのか、少し早口だったような気もするし…反省しながら舞台袖に入ると大先輩たちが笑顔で迎えてくださいました。ドキドキしながら舞台に立って、ワクワクしながら自分以外の出演者の朗読も聴かせていただきました。「朗読」の奥の深さを実感し、とても有意義な一日となりました。「さて、今度は何を読もうかな～　聴き手の想像力を大切にした朗読を」と次回に向かって気持ちが動いています。（永井悦子）

本読みの指導の先生、演出家から的確な意見を頂き、又当日も舞台の出入り、立ち位置等、諸先輩から優しく指導を頂き、落ち着いて読む事が出来ました。楽しい時間を有り難うございました。（新関惇子）

八重洲朗読会」の発足からの歩み

「八重洲朗読会」が産声を上げたのは2005年３月。八重洲ブックセンター七階洋書売場奥のイベントスペースだった。当初、八重洲ブックセンター（略YBC）からの申し出は日本橋オフィス街のビジネスマンを対象とするので、作品は中年男性の好む山本周五郎、藤沢周平を中心にと。前年に就任された城所理事長がＹＢＣに交渉され、新米実行委員の早川・横山・望月が役員方との打合せに伺い、年明け早々「定期朗読会開催」の旗揚げ会

第１回、2005年（Ｈ17）3月14日

合。新ＮＰＯ会員の主婦、研修経験者、プロのM.C.等が集まるが、各人の力量も分らない上に協会の方針は「出演機会平等」。希望者優先で割り振るしかなかった。リハーサルで基本的なダメ出しはしたが、指導者もないまま本番へ。第一回入場者の40人が28、26と減っていく。周辺歩道でのチラシ配りも効果なく、遂に6月ＹＢＣから中止の申し出が。

「あと一度だけ。客の入りと反応を見て継続を考える」と宣告され、直ちに緊急会合を開き全会員の協力を要請。起死回生の第７回「八重洲」は ９/２４（土）河崎、稲本、望月の出演と決まる。貴重な発表会場が失われるかも知れない危機感で、この時ほど、会員の団結心が一つになった事は後にも先にもなかった。全会あげての協力が物を言い、新装成った八階ギャラリーでは定員百を超え120人が来場。会場には、「火垂るの墓」に啜り泣く男性の嗚咽が響き亘り、後から後から増える観客の為、椅子の補充に汗ダクの担当部長が満面の笑みで「続行」を快諾された。但し、条件が！　新ギャラリーを「文化芸能の発信地に」と意気込むYBCに朗読会は「高い水準の維持」という難題を課せられた。そこで、第2回緊急会合で出演者の「テープ審査」を行うことを決定。１０/２９(土) リニュード「八重洲朗読会」は実行委員早川、田中、望月でスタート。毎月、企画構成で心がけたのは、力のある経験者、中堅層、若手、伸び盛りの新人を組合わせ、声質と年代のバランスを図った上での作品構成。当り前のようだが、力量ある読み手の不足等、苦労が続く。最大のピンチは２年目の５月、「朗読の日」の準備で出演承諾者が皆無という事態が起きた時だった。３年目に入ると、朗読力のレベルアップが目に見えてきた。客数はぐんぐん伸び、100～120に安定。新聞に載ると超満員の150。会員の研鑽と実行委員の努力が成果を上げて、画期的な向上を遂げたのであった。　（望月鏡子）

第７回、2005年（Ｈ17）９月24日

第１００回、2017年（Ｈ29）1月28日

八重洲朗読会は今年1月で100回目を迎えました。100回続くというのは実に素晴らしいことだと思います。 昨年3月までは何人かの方が数年間運営していくという形を取っていたこの朗読会ですが、4月からは八重洲朗読会に登録している会員が3グループに分かれ１年ごとに運営していくという形になりました。１グループ10数名で担当し地方の方も含め一人一人が役割を持ち運営しています。1年間皆で分担しても結構行うことがあり大変だと思いますのに、今までの方は数人でこれを何年も行っていたのですから本当にご苦労もあり大変なことだったと思います。100回を迎えることが出来たのもその方々のお陰と心より感謝いたします。皆で分担し行うことでスタッフの苦労が分かり出演する時のスタッフへの感謝が一段と増すことと思いますので１年ごとに皆でという方式は良かったのではないかと思っています。

朗読会は出演者だけで成立するものではありません。企画・構成・演出・チラシ作成・運営等を地道に行っていくことで実績を積みお客様が定着して下さる。そして100回を迎える事が出来たのです。入場料無料ですので皆様気楽にお立ち寄り頂けていると思います。毎回楽しみにいらしてくださる方も多く、とても暖かい雰囲気の中でお客様と一体になれる会場です。朗読するにはとても良い空間です。この八重洲朗読会は会員であればどなたでも登録申請が出来ます。ご自身の読まれた作品を吹き込んで協会にお申し出ください。詳しいことは協会にお問い合わせください。毎回のお客様が100名近くいらっしゃる所で朗読というのはとてもやりがいがありますよ！ 皆で盛り立てながら八重洲朗読会が今後も発展していく事を切に祈っています。

（稲本由美子）

第30回、2008年（Ｈ20）1月19日（いすれも撮影／田中邦子、早川とし子）

地元に「朗読」の風を

土屋久美子（新潟県柏崎市）

新潟・柏崎に戻って６年が経ちました。東京での生活が長かったため生まれ故郷と言っても新しい生活に慣れるのに時間がかかりました。現在は、市内にある「小さな絵本館サバト」のスタッフとして絵本の読み聞かせを行ったり、市内の学校へのライブや高齢者施設に絵本を持って訪問する活動などを行っています。

「朗読」に出会ったのは、12年前。当時小学校の教員だった私は白血病を患い休職していました。一年間の治療を終え、退院したものの再発への不安や、元気に仕事ができるのかという不安もあり、気分も落ち込みがちの毎日でした。半年たった頃、近くのカルチャーセンターで「朗読講座」を開講すると言うチラシが目に入りました。体力も回復してきた頃で、今やりたいことはできるだけ実行しようと考えるようになり早速申し込みました。先生は松島邦先生。発声練習や作品の読解を通して声に出す楽しさを実感する講座でとても新鮮でした。

その後、職場に復帰することができ「朗読」を学ぶ時間はとれませんでしたが、退職後は読み聞かせや朗読などのボランティアをしようと考えるようになってきました。もし、病気にならずに退職していたら「朗読」との出会いはなかったと思います。

柏崎では毎年９月に「音市場」と言って市内のお店、ホール等20ヵ所でいろいろなジャンルの音楽を聞く会が催されます。私も４年前から友人と「朗読とピアノ」で参加しています。地方は、都会と違い「朗読」という世界に接することが少なく、初めて聞いたという方がほとんどで好評でした。

小学校へ読み聞かせに行くと先生から「朗読を聞いているようでした」という感想を頂きました。絵本でも聞いている人にイメージ豊かにお話の世界が伝わればと思っています。

昨年夏、地元の「ドナルド・キーン・センター柏崎」で「ドナルド・キーン先生の著書を読む」朗読会を行いました。鶴岡で朗読活動されている方に声をかけていただき、3人で「にいがたルネサンスの会」を立ち上げました。この会は「歴史的建築で朗読を愉しむ会」を目的に生まれた会ですが、新潟県下においても「朗読文化」を広めていきたいという願いがあります。

ドナルド・キーンさんは東日本大震災後、日本国籍を取得され現在も執筆、講演、対談等でご活躍です。「ドナルド・キーン・センター柏崎」は彼のニューヨークにあった書斎を再現し使っていらした家具や本をそのまま飾り、彼の日本文学や日本文化の研究など貴重な資料もたくさん展示してあります。キーンさんと柏崎との出会いは、2007年７月に発生した中越沖地震です。市民へ復興の希望をと考え、彼から古浄瑠璃「越後国・柏崎弘知法印御伝記」の復活上演が提案されました。その後彼がニューヨークから東京に引っ越しされることをきっかけに、お菓子の「ブルボン」が柏崎に文化活動の発信拠点として「ドナルド・キーン・センター柏崎」を設立しました。

館内にはキーンさんの著書も並んでいますが、機会がないと読むまでには至りません。今回朗読の機会を頂き、彼の生い立ち、日本文学への思いを知り、あらためて彼のお人柄を知ることができました。また当日は松島邦先生をお招きし、より充実した朗読会になりました。参加してくださった方から後日「朗読を聞いて自分でも読んでみました」という嬉しい感想を頂き、「朗読文化」を少し広めることができたかなと自負しています。

地方に住んでいると「朗読」を聞きに行く機会があまりありません。協会のホームページ「朗読、公演」のお知らせを見ながら、近ければ参加したいなあという思いでいます。これからも「学びの精神」を忘れず、微力ですが地元でできる朗読活動を行なっていきたいと思います。

絵本に思いを寄せて

上村唯乃

「わぁ、この絵綺麗！」

私がその絵本に出会ったのは、仕事の最中でした。

今、私は図書館で司書の仕事をしています。しかし司書だからと言って、今まで沢山本を読んできたわけではありません。本は好きでしたが、ゆっくり読書をする時間を作ることが出来なかったのです。だから今ようやく、本に囲まれて仕事をする事が出来て大変嬉しく思っています。しかし仕事は仕事。辛かったり、疲れてしまう時があります。仕事に限らず、大人になると色々と考える事が増え、心が疲れてしまう時ってありますよね？

私が刀根里衣さんの『モカと幸せのコーヒー』（NHK出版）を手に取ったのは丁度そんな時でした。返却カウンターで絵本が帰ってきた時、幻想的なタッチのイラストに惹かれて思わず手を止めたのです。

コーヒーカップから顔をのぞかせる、ほっぺたが赤い白ウサギ――モカ

日常に疲れて傷ついている青年の目の前に現れたモカが、美味しいコーヒーをいれて癒してくれます。大切な子どもの頃の気持ちを思い出させてくれる、心暖まる物語でした。

刀根里衣さんは現在、ミラノを拠点に創作活動を行っているそうです。海外で活躍している日本人の絵本が、海を渡ってこうして私たちの手元に届いていることに、感慨深くもなりました。最初は絵に惹かれた私でしたが、読んでみると主人公と自分が重なったりして、子どもよりも大人になってからの方が深く考えさせてくれる作品だなと思いました。

今まで私は、絵本は小さな子どもが読むものだと思っていました。私が再度絵本を手に取るようになったのは、朗読がきっかけです。他の方が絵本を朗読しているのを見て、絵本の魅力に気付かされました。

作家の柳田邦夫さんは、数年前から講演会やエッセイで「大人こそ絵本を読もう」と呼びかけています。自身の著書『生きる力、絵本の力』（岩波書店）の中で、“絵本は、生きることや人生や対人関係やいのちについて、基本的に大事なことを忍ばせている表現ジャンルなのだ。人生経験を積むほどに、絵本が秘めている深い語りかけに気付いていくものだ。”と語っていました。

「絵本は人生に三度」。一度目は自分が子どもの時、次は子どもを育てる時、そして三度目は、人生が後半になった時。私はまだ二度目も三度目も人生経験を踏んでいませんが、絵本の魅力に気付いた今、正面から向かい合い、絵本の大切さを朗読で伝えていきたいです。

本にまつわるエッセイ

本の香り

河崎早春

子供の頃、書庫に入って古い本の匂いを嗅ぐのが好きだった。古本屋に入った時にもあの乾いた独特の匂いがあったが、新本屋にはそれがなかった。本の匂いって、どこから来るのだろう…。

３年前に見た映画「世界一美しい本を作る男」のなかに「最近のインクは匂いがなくなった」という言葉がでてきた。そのことが気になって調べていたら、なんと「印刷したての本の香りの香水」という代物を発見。発売元はドイツの本屋さん。デザインはシャネルのデザイナーでもあったカール・ラガーフェルドだという。（どんな香りなんだろう）そう思ったら、もう気になってたまらなくなり、香りも確かめずに取り寄せてしまった。

深紅の包み紙を開くと、出てきたのは真っ白な本に黒でPAPER PASSIONの文字。帯と中の紙は真っ赤で、なんとも洒落ている。本を開くと、どのページも香水の形に紙の真ん中が切り取られていて、そこに香水瓶がはめ込んである。

恐る恐る瓶の蓋を取ると、それは本好きにとっては媚薬のような香りだった。動物的でも植物的でもなく、花の香りとも違う。しかし、これが印刷された本の香りかと言われると果たしてどうなのだろう？

先日引越しで古い本を整理していて、明治時代に日本で初めて出たカラー漫画のタブロイド紙「東京パック」が何十冊も出てきた。面白いので、これをYouTubeで紹介しようなどと考えて捲っていたら、強いインクの香りが鼻をくすぐった。百年以上も前の本だというのに、まるで印刷したてのよう。もしやと思い、香水を取り出して嗅いでみると、それはまさに同じ匂いなのだった。

匂いは五感の中でも、最も原始的なものだという。イメージを喚起させ、記憶や思い出にも結びつく。だから私は朗読するときは必ず鼻で空気を吸うようにしている。（そうだ、朗読するときはこの香水をつけよう！）

ところが最近調べたらプレミアがついて、とんでもない値段になっていた。近年本の香りがなくなったように、再び出会ったこの香りも、この瓶を使い終わったら、思い出の香りとして記憶の中にしまうことになりそうだ。

2016年 小中学校古典朗読訪問記

2013年に始まった、小中学校古典朗読訪問・学校プロジェクトも、2014年には古典研究会が発足され、加賀美先生の監修の下、児童・生徒に「古典の心、古典の楽しさ、面白さを伝えよう」という思いは現在に至るまで継続されています。加賀美先生にご指導頂き、今年度はその成果を試す、以下のような大きな2回の古典朗読訪問を行いました。

＊4月12日「愛読書は、平安時代のベストセラー？」の表題を掲げ、江戸川区立小松川第二中学校の読書週間に、全校生540名を相手に、1時間の古典朗読と講演を行いました。主軸は「枕草子」。終わって、生徒からのお礼の言葉をもらった時、また、全校生徒からの感想文を読んだ時、私たちが伝えたかったことを間違いなく受け取ってくれたことを知りました。そして、多くの生徒たちの「ぜひまた来て話してほしい」という感想文を読んだとき、携わったもの一同、心からの喜びを感じることが出来ました。〈訪問者：阿部俐奈、小川弘子、佐藤すみ江、田中邦子、添川江利子、早川とし子〉

＊12月9日 世田谷区立経堂小学校「日本語週間」での授業の一環として、4年生「古典を楽しもう『枕草子』」5年生「『平家物語』を訪ねて」6年生「急ぎ足『おくのほそ道』－俳句と名文でたどるー」各学年とも100名対象。2～4時限の連続の授業時間各45分の中で、古典の解説と手本朗読、そして子供たちと一緒に朗読というハードな課題の下に行いました。内容はどれも充実したものであり、子供たちの手ごたえも悪くありませんでしたが、児童との関わり合い方など、これからの課題も残されました。〈訪問者：阿部俐奈、小川弘子、佐藤すみ江、杉浦貴子、田中邦子、羽村郁子、早川とし子〉

（古典研究会　阿部俐奈）

4月12日、江戸川区立小松川第二中学校にて。

12月9日、世田谷区立経堂小学校にて。

当協会教室の生徒さんからの声

現在各教室に所属する生徒さん（匿名）に、次の質問でアンケートを行いました。今後受講を希望される際の参考にしてください。
質問事項は次の通りです。　❶教室加入歴　❷朗読歴　❸受講動機　❹今後の目標　❺教室について

加賀美教室

❶3年4ヶ月　❷14年
❸以前から加賀美先生の講座を受講するのは念願であった。
❹友人のエッセイ「大勢の中のあなたへ」を目の不自由な方々に、2017年の前半には届ける。
❺先生が、長年続けておられる古典文学。それらに対する思いに触れその息遣いを感じ学べる。古典の面白さと、奥深さに改めて気付かせて頂ける講座です。

飯島教室

❶11年　❷11年
❸将来ボランティア活動をするなら、「絵本の読み聞かせ」ができたらいいなあと思ったのがきっかけでした。当協会のことは新聞記事で知りました。
❹朗読を通じて、いろんな方とのネットワークを広げていき、朗読を聴いて下さった方が、「楽しかった」「また聴いてみたい」と思って下さる朗読を目指したい。
❺先生のジャンルは絵本から古典まで幅広いので、自分の読みたい作品を自由に選んで、各人のレベルと目的に合った指導をして下さるのが魅力です。何より、朗読が楽しく好きになります！

飯田教室

❶6ヶ月　❷4年
❸演出に関心がある。
❹朗読、演出を学び、音楽、美術も含めて研さんを積み、お客さまに楽しんでいただけるステージを、自ら作っていきたい。
❺飯田先生はとても明るく気さくなので、楽しく学ぶことができます。受講生同士も仲が良く、和気あいあいとした雰囲気です。読む文章もバラエティー豊かなので、読んでいて面白く、知らず知らずに朗読が上達します。

河崎教室

❶3年9ヶ月　❷6年
❸スキルアップと朗読を通しての仲間作り
❹読むのではなく、語りかけているような「自然体の読み」を取得したい。如何にしたら聴く人の心に残せるか、思わず引き込まれるようなそんな読みが出来たら！
❺各自読みたい作品を読み、メンバーの朗読を聴くなかで学び、終了後は、皆で昼食をします。作品を読む時、裏の声を探しなさいと注意をうけるが、文字に書かれていない言葉を探す事により、より豊かな表現になります。母音と子音の事なども考えずに読んでいたが、ご指導により朗読の奥深さと難しさを実感しています。

児玉教室

❶3年　❷8年
❸詩（茨木のり子）に興味があり、歌とか狂言よりはできるかなと思った。
❹ピアノとのコラボで、「茨木のり子の世界」を「朗読の日」公演で教室のみんなと演じたい。
❺あまり急がず、一人の作品を追求できる。児玉先生の気持ちの顕れる発声を学べ、長い経験、エピソードなどのお話が聞ける。

内藤教室

❶4年10か月　❷約8年
❸扱う教材に魅力を感じて！
❹ボケ防止につとめます？
❺先生の熱心かつ丁寧なご指導で、受講者の皆さまもそれに応えようと努力、切磋琢磨している。

成瀬教室

❶1年4ヶ月　❷約8年
❸新派の演出家の講師から朗読を学べる絶好の機会
❹朗読劇の面白さを実感し、体得したい。
❺先生は熱心で懇切丁寧な指導をして下さいます。お仲間は皆さんベテラン揃いで、朗読だけでなくいろんな意味で楽しいグループです。

蒔村教室

❶2年　❷10年
❸朗読力の向上のため
❹2、3人の朗読仲間と小さな朗読会を定期的に開いて、聞いてくれる人に日常のささやかな楽しみとしてもらえるようになりたい。
❺半年に一度の発表会に向けて、自分の読みたい本を選んで持ちより、指導を受けます。さらに、著作権の申請方法、舞台での所作等、初心者でも発表会を作ることが出来るよう教えてくださいます。より良い発表会にする為、皆で協力するとても気持ちの良いクラスです。

宮崎教室

❶1年10ヶ月　❷8年
❸入会する随分前から、八重洲朗読会のファンでした。なるべく多くの先生に習って、多くを学びたかった。
❹朗読力を上げたい。お金を払っても聴きたい、と言われる朗読力を身に付けたい。好き嫌いなく、どんなものでも読めるようになりたい。
❺私自身、地方出身でアクセントに自信がありませんが、徹底的に直して頂け、習得できます。また、音声理論も教えていただけるので、人に教える時に大変参考になります。

掲示板　会員の朗読会と活動情報（2017.2～2017.9）

日時	公演名	場所	出演者名
2月3･4日	伊豆･文学湯治の旅	湯が島温泉白壁荘他	飯島晶子
2月5日	お話し会「絵本でおさんぽ」以後毎月第一日曜日）	紀伊國屋書店新宿本店	赤間立枝･藤沼昌子･望月鏡子
2月5日	とんからりん（朗読他参加型）	湯島･コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
2月11日	目黒カルチャー朗読発表会	下北沢･しもきた空間リバティ	服部和子･山村都
2月12日	朗読で感じる実篤「友情」を読む	調布市立武者小路実篤記念館	河崎早春
2月12日	冬の夜咄(よばなし)～大人の茶会	京都 長福寺	植田聖子
2月19日	いちごいちえ～あなたとわたしと～（絵本でブックトーク）	渋谷区千駄ヶ谷	添川江利子
2月25日	第3回チャリティー朗読会	赤坂区民ホール	
2月27日	第9回山本周五郎　悠日朗読会「初雷」	宇都宮･ギャラリー悠日	青木ひろこ
2月27日	お昼休みコンサート	千葉･大里総合管理	吉田周子
3月1日	心の琴線に響く語りの会	八幡山公園洋館	加藤敬子
3月5日	薔薇の朗読会	東武レバントホテル東京「松桐」	永井喜代子
3月5日	お話し会「絵本でおさんぽ」（以後毎月第一日曜日）	紀伊國屋書店新宿本店	赤間立枝･藤沼昌子･望月鏡子
3月11日	第67回　ハートストリングス語りと朗読の会	阿佐ヶ谷ハートストリングス	内藤和美
3月17日	第10回　北新朗読会～弥生～	北新宿生涯学習館	内藤和美･本間恵子
3月17日	ふたりの部屋ふたりの部屋	ティアラこうとう小ホール	宮内佳代子
3月20日	朗読Ｌｉｖｅ	下北沢･Ｃｏｍ.Ｃａｆｅ　音倉	中田真由美
3月25日	八重洲朗読会	八重洲ブックセンター本店8Ｆギャラリー	
3月26日	国宝「紅白梅図屏風（複製）」鑑賞と朗読	川西市郷土館 旧平安家住宅	植田聖子
3月31日	洋館に集う洋館に集う	八幡山公園洋館	加藤敬子
4月1日	第2回書（ふみ）を読む	千葉市･生涯学習センター小ホール	古内恵美子･宮崎弥生･坂本有子
4月2日	とんからりん（朗読他参加型）	湯島･コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
4月6日	春うらら朗読会	ティアラこうとう小ホール	蒔村三枝子教室
4月9日	第53回川西市源氏まつり出陣式～春の詩･春の歌	川西阪急百貨店前	植田聖子
4月14日	青山の昼下がりＩＸ	千代田区立内幸町ホール	望月鏡子･池田美智恵･川合正美･関まさ子
4月15日	つくば朗読館	つくば市立ノバホール･小ホール	内藤和美
4月20日	春の朗読会	錦糸町テルミナ６階	永井喜代子
4月22･23日	ぶれさんぽうず　春の会	下北沢･しもきた空間リバティ	内藤和美
4月29日	人形師山本由也･朗読と音楽のあわいで遊ぶ	宇都宮･ギャラリー悠日	青木ひろこ
5月1･2日	樋口一葉お誕生日公演「一葉の恋」	千代田区立内幸町ホール	坂本有子･松島邦
5月4日	奇跡の森の朗読会	能勢妙見山 天然記念物指定ブナの森	植田聖子
5月9日	百合の会	新百合ヶ丘エルミロード６階	永井喜代子
5月14日	第7回朗読の会「欒（だんらん）」	王子･北とぴあスカイホール	吉川京美･田中邦子
5月21日	第19回オリーブ朗読会	山武市･さんぶの森文化ホール	古内恵美子
5月21日	桜蘭ず朗読会	彩の国さいたま芸術劇場映像ホール	関まさ子
5月30日	第10回山本周五郎　悠日朗読会	宇都宮･ギャラリー悠日	青木ひろこ
6月1日	清友会総会アトラクション	京王プラザホテル	望月鏡子
6月4日	とんからりん（朗読他参加型）	湯島･コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
6月7日	公津の杜朗読会	ユアエルム成田店３階	永井喜代子
6月9日	作曲家二人展	豊洲シビックホール	秋山雅子
6月10日	能物語「敦盛」	栃木県総合文化センター	青木ひろこ
7月7日	ことのはぐさ	なかの芸能小劇場	内藤和美
7月29日	語りと音楽「シリウス」朗読コンサート	ミューザ川崎市民交流室	秋山雅子
6月22日	朗読茶話会Ｖｏｌ.9	西浅草光円寺	松田麗子･松森世津子
9月15日	語りの会　ぼてふり	深川江戸資料館･小劇場	内藤和美
9月30日	木の実朗読会Ｖｏｌ.10	栃木県総合文化センター	青木ひろこ

事務局からのお知らせ

★会員更新のお願い★

2017年度年会費の払込用紙を同封しました。3月末日までにお手配をお願い致します。

★朗読ニュース新メンバー大募集★

朗読ニュース夏号に向けて、5月に始動します。フレッシュなメンバーを大募集します！

★ボランティア保険加入のご案内★

全会員を基本コースに加入申込み致します。追加で天災コースをご希望の方は加入料300円を会費と共にお振込下さい。 通信欄に必ずその旨をご記載下さい。

★八重洲朗読会登録審査★

八重洲朗読会への登録をご希望の方は、3月末日までに事務局までお申込み下さい。

編集後記

紅梅が咲くのも真近ですね。河崎先生を始め多くの方々に寄稿していただき、盛り沢山の掲載となりました。企画から原稿依頼やデザイン提言等、編集員にとっては作る喜びと共に試行錯誤の連続ですが、出来上がった時は達成感があります。今回で、川口・菊地・吉松は退任しますが、次回は新メンバーが新風を吹き込んで下さることを期待しています。今までのご協力有難うございました。

（吉松、早川、川口、菊地、柳瀬）

雑学

1400年以上続く世界最古の企業が日本にある!

日本の老舗（一般に「３代100年」、洋食店は創業50年位）は世界で一番多く、200年超す企業が200社以上あり、さらに1400年以上の企業が大阪市にある社寺建築業の「金剛組」。578年に聖徳太子の命を受け、七大寺のひとつ「四天王寺」を建築し、焼失の度に復興してきた。

朗読ニュース2017年早春号（通巻45号）　発行日／2017年2月1日　発行／NPO日本朗読文化協会
理事長／城所ひとみ　〒107-0052　東京都港区赤坂3-8-8　赤坂フローラルプラザビル3Ｆ
TEL：03-3584-4451　FAX：03-3584-4452　E-mail：npo-rodoku@rodoku.org　http://www.rodoku.org/